

E 24 結婚生活の幸福度と男女の意識・態度
鳥取女子短大 ○高橋惇子

目的 近代家族制度が徐徐に定着する過程で、急激な社会変動の諸相が影響し、家族間に緊張や葛藤が多く、派生する諸現象が社会問題となっている。結婚生活の成功要因は、当事者の時間的、空間的、かつ力動的に統合されたもので、一面的視点から引き出し難いものであるが、結婚生活の実態を分析し、家政学教育の資料とする。

方法 調査地 鳥取県中部地区。調査時期、53年6月～9月。調査方法：未婚者、既婚者2種類の調査票作成し、留置記入法。本報は既婚者について、その幸福度を「非常に幸福」、「幸福」、「普通・不幸」の三比較群と関連する数項目をクロスさせ分析を行なう。

結果 「非常に幸福」とするもの男31.2%、女30.3%、「幸福」は男42.5%、女41.7%、「普通・不幸」は男22.8%、女22.5%である。年令別では男子の幸福度は50代が高く、30代が低い。女子は逆に20代が高く、50代が低い。学歴別では男女とも高学歴のものに幸福度の高いものが多い。女子は、低学歴者の幸福度が低いことが目立つ。職業の有無別では男女とも差はないが、職業別にみると男女ともホワイトカラーに幸福度の高いものが多い。家族形態別、家族数別では男女とも差はないが、子どもの数については、子なしの男子に「普通・不幸」が多いのが目立つ。男女とも結婚形態では恋愛結婚が、結婚の意志決定では自分の意志によるものに幸福度が高い。家庭生活上の決定事項では、夫婦一致型に幸福度の高いものが目立ち、夫婦間の意見の相違項目を見ると男女とも、対家族態度が多い。「普通・不幸」群では男子は、妻が自分や家族への態度に、女子は子どもへのしつけ、教育、家計などに多い。